

# 第2章 あたご部門小学部の 研究

～国語科、算数科の年間指導計画と国語科の単元別指導計画表の作成～

## 第2章

### あたご部門小学部の研究

#### 1 研究の方法

昨年度の研究では、国語科及び算数科において1段階（低学年）、2段階（中学年）、3段階（高学年）に分かれて学習指導要領の指導内容を文部科学省著作教科書特別支援学校知的障害者用（以下星本）の題材を中心に振り分けて単元化を行った。グループごとに単元の学習内容を検討し、国語科の年間指導計画表を編成及び単元別指導計画表の作成をした。算数科に関しては、研究部を中心にグループごとに学習指導要領の指導内容を段階別に振り分け、単元化を行い、年間指導計画の編成及び題材一覧表の作成を行った。

今年度は、昨年度編成した年間指導計画と単元別指導計画表（国語科）に基づき、授業実践、単元別指導計画表（スタンダード）の見直しを行っていく。算数科に関しては、単元別指導計画表（スタンダード）を作成し、学習内容の検討を行う必要がある。また、昨年度の研究の課題として挙がっていた、「高学年になるに従って児童の実態や習熟度の差が大きくなっていき、年間指導計画に沿って学年相当の段階の学習をすることが難しい児童の割合も増えてくる。」（平成30年度研究紀要より）ということについての解決策の検討も併せて行っていくことにした。以上のことを踏まえて、次のように研究仮説を立て、研究を進めることにした。

<研究仮説>

国語科、算数科の年間指導計画表に基づいて、研究授業や普段の授業を実施する中で、様々な課題が出てくることが予想される。その課題を基に国語科、算数科の指導目標を整理し、単元や年間指導計画の見直しを行う。また、見直した後、国語科、算数科の単元別指導計画表（新様式）を作成するにあたって、参考にするための資料として、単元別に学習指導要領の国語科、算数科の指導内容を整理した、指導内容一覧表を新単元について再整理する。以上のことに取り組むことで、単元別指導計画表を活用した授業実践が進み、更に、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながっていくのではないかと考えた。

#### 2 研究の経過

月	内容
4月	○昨年度の研究内容と今年度の計画についての確認をする ○新様式の単元別指導計画表（国語科）の記入の仕方についての共通理解を図る。
5～6月	○昨年度作成した単元別指導計画表をもとに、各学年一単元ずつ新様式の単元別指導計画表を作成して授業を実施し、気付きを出し合う。
7～8月	○1から3段階まで、学習指導要領の国語科の指導内容を四つに分けて共通の単元を作成し、縦割りで4グループに分かれて目標や学

	習内容についての検討を行う。
9～11月	○新単元の単元別指導計画表（国語科）の作成（各グループ）を行う。
11～12月	○次年度の年間指導計画（国語科）（数学科）の検討を行う。 ○研究授業・授業研究会（国語科）を実施する。
1月～2月	○単元別指導計画表（算数科）の作成（各グループ）を行う。 ○次年度の国語科、算数科の年間指導計画に基づいた授業実施に向けての共通理解を図る。

### 3 研究の実際

#### （ア）国語科の年間指導計画及び単元別指導計画表に基づいた授業実践

昨年度編成した年間指導計画表に基づいて、研究推進委員会から出された新様式の単元別指導計画表を作成し、授業実践を行った。しかし、昨年度の研究部の方針では、児童の実態に応じて対応の学習段階の年間指導計画を使用できるとなっていたが、今年度は、学年の年間指導計画の内容を児童によって学習段階を変えて取り組ませるということに変更された。そのため、1段階の児童が大半の低学年では、単元別指導計画表を活用し、授業実践をすることが可能であったが、1から3段階の児童が混在する、中、高学年では、学習段階が違う児童を同じ単元で指導しようとした際にどのような単元目標を設定していけば良いのかが不明確で、授業を進めることが難しいという意見が複数出された。

#### （イ）縦割りグループによる国語科の単元の見直し

（ア）の課題を踏まえて、1から3段階の単元を共通のものとし、学習段階が違う児童の指導目標や学習内容を考える参考になるようにできないかと考えた。学習指導要領の指導内容の中で、1から3段階へ発展していく内容を取り出し組み合わせて、指導内容が適かななどの単元構成の検討をグループに分かれて行った。グループ編成においては、学年の偏りがないように、低、中、高それぞれの学年が一グループに入るようにし、四つに分けた。その結果、「おはなしをよもう」「げきをしよう」「はなしをしよう」の三つの単元が完成した。残りの一つのグループでは、繰り返しの学習で定着を図る、「読む」「書く」の基本的な指導内容と各段階独自にある指導内容を合わせて、通年で取り組むことができないか検討を行った。指導内容を関連付けながら分け、「かいてみよう」「よんでみよう」「くらべてみよう」（2年生から4年生）「しらべてみよう」（5年生～6年生）に分けて、主に「おはなしをよもう」「げきをしよう」「はなしをしよう」の単元で取組んだ学習を定着させるための、国語科の基礎になる内容を取り扱うようにした。学年を縦割りにしたグループで話し合いを行ったので、系統性のある単元構成や学習内容を考えることができた。（資料1）

#### （ウ）単元別指導計画表を用いた研究授業、及び授業研究

11月に5年生の国語科の単元「はなしをしよう①」で研究授業を行った。このク

ラスは、2段階と3段階の児童が在籍しており、多少の実態差が見られた。クラスで一斉授業ということで、子供同士の学び合いというよさがあったものの、2段階の児童への学習内容の工夫が難しかったという授業者の反省が出た。さらに、授業研究会での意見として、3段階の児童に対してもっと高い課題を設定してもよかったのではないかという内容が複数あり、たくさんのアイデアも提供された。改めて、学習段階が混在した学習グループでの授業の難しさが感じられた。また、単元別指導計画表も作成されていたが、スタンダードの単元別指導計画で設定されている目標が多すぎたり、難かしすぎたりして、実際の授業計画と単元別指導計画表（スタンダード）との間に大きな差が出てきたため、研究授業の資料としては提供できなかった。（資料2）

単元別指導計画表（スタンダード）を基に授業をして、初めて指導目標が妥当であるかが検証できた。今年度は研究部が単元別指導計画表の理解に時間が掛かり、授業実践をあまり進められなかったが、来年度以降は学部全体で取り組んでいく必要がある。

#### （エ）国語科の年間指導計画の見直し、新単元の単元別指導計画表の作成

1から3段階の共通の単元について、縦割りのグループで単元別指導計画表を作成した。昨年度は題材を星本から選定したが、実際に授業を行ってみて、「星本の題材を網羅するには、内容が多すぎて授業時数が足りない」「星本の題材の中に、学習指導要領の指導内容に合うものが見つからない」などの課題が出てきた。そこで、指導要領の指導内容を横断的に指導することを中心に考えて、題材を選ぶことにした。まず星本の中から題材を探し、適当なものがない場合は、一般図書から指導内容が含まれる物を選んで題材に設定した。但し、実際に授業を行うときには、児童の興味関心に応じて変更可能ということを共通理解した。

年間指導計画の配列及び指導時数については、各単元グループで指導時期や時数の検討を行い、案を作成した。その後、学部全体で意見を交換し、来年度の年間指導計画を編成した。

年間指導計画に、振り分けた指導内容について改めて確認をしていくと、いくつか、再検討をした方がいい内容もあり、来年度授業実践をしながら検証していく予定である。（資料1の下※欄）

#### （オ）算数科の年間指導計画の見直し、単元別指導計画表の作成

昨年度の研究で作成をした、指導要領の算数科の指導内容を単元別に振り分けた内容表を今年度の研究部員で見直した。昨年度編成した単元をできるだけ残しながらも、単元別指導計画表が書きやすく、活用しやすいものにするために、指導内容の重複をなくした。また、国語科と同様に段階の違う児童の指導目標や学習内容が確認しやすいように、単元を「数と計算（数量の基礎を含む）」「図形」「測定」「データの活用」の四つの領域グループに分けて、関連について共通理解した。また、国語科同様、単元で学習した内容を定着させるために、通年の時数を確保するようした。研究部が案として出した、年間指導計画と単元指導内容表を全体で検討し、いろいろな意見を調

整して完成させた。(資料3)

国語科で取り組んだ縦割りの四つのグループで、今年度見直した単元別に指導内容を振り分けた、指導内容表を参考にして、それぞれ「数と計算(数量の基礎を含む)」「図形」「測定」「データの活用」の単元別指導計画表の作成を行った。

#### 4 まとめと研究の課題

今年度は、主に昨年度のあたご小学部研究のまとめで挙げられた課題である、授業を行うクラスの中に様々な段階の児童がおり、実施する単元における指導目標や学習内容の設定が難しいということを改善するための研究を進めた。

研究を進めるにあたって、縦割りのグループを作り、1から3段階の共通の単元をまとめたことで、学習段階に応じた指導目標を立てたり、学習内容を考えたりすることが、同じ単元の対応した学習段階の単元別指導計画表を参考にすることでやりやすくなった。また、単元別指導計画表を作成することによって、1年生から6年生まで系統立てて学習指導要領の指導内容を見たり、学習指導要領を読み込んだりし、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」について考える機会になった。

今後の課題としては、①単元別指導計画表を記入する意義や活用の仕方を全体でしっかりと共有することができず、作業的に単元別指導計画表(スタンダード)を作成して終わってしまったことが挙げられる。今年度取り組んだ、単元別指導計画表の検討や全体研修での研究部主任による単元別指導計画表の意義の説明などを経て、来年度、スタンダードを活用することによって、意義を全体で実感していくことが必要であると考えている。

また、②学習段階が違う児童が混在するクラスで国語科や算数科の授業をする場合の指導形態について検討していく必要がある。特に算数科に関しては、同じ「数と計算」の単元であっても、段階が違くと指導内容がかなり違ってくる。中には一斉授業で指導することが難しい内容もあるので、より指導しやすいグループ編制など、指導形態の工夫が必要になってくるだろう。さらに、③来年度から新たに単元別指導計画表に追加された内容として、学習活動の中で「見方、考え方」を引き出す指導内容について、参考資料などを集めて考えていかないとならない。

#### 参考文献

- ・ 文部科学省特別支援学校学習指導要領 平成29年度
- ・ 文部科学省特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部) 平成30年度
- ・ 文部科学省 国語☆☆☆☆ 教科書解説 平成24年度
- ・ 文部科学省 数学☆☆☆☆ 教科書解説 平成24年度

国語科 指導内容一覧表

(資料1)

単元	学年	1 段階	2 段階	3 段階
おはなしよもい	1 ・ 3 ・ 5 年	<p>(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。</li> </ul> <p>(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。</li> </ul> <p>(学・人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を繰り返したり言い方を変えたりして相手に伝えようとする。</li> </ul>	<p>(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたリ、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。</li> </ul> <p>(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。</li> </ul> <p>(学・人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本に出てくる言葉や物語の展開に興味をもち、自ら読もうとする。</li> </ul>	<p>(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。</li> </ul> <p>(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体をとらえること。</li> </ul> <p>(学・人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や易しい読み物などに関心を持ち、内容を共有しようとする。</li> </ul>
	2 ・ 4 ・ 6 年	<p>(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。</li> </ul> <p>(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。</li> </ul> <p>(学・人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉を繰り返したり言い方を変えたりして相手に伝えようとする</li> </ul>	<p>(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。</li> </ul> <p>(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。</li> </ul> <p>(学・人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本に出てくる言葉や物語の展開に興味をもち、自ら読もうとする。</li> </ul>	<p>(知・技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。</li> </ul> <p>(思・判・表)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせなどを通して、出来事などの話の大体を聞き取ること。</li> </ul> <p>(学・人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本や易しい読み物などに関心を持ち、内容を共有しようとする。</li> </ul>

		<p>げきをしよう</p>	<p>1・3・5年</p>	<p>2・4・6年</p>	<p>はなしをしよう</p>
	<p>(知・技) ・遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。</p>	<p>(知・技) ・遊びややりとりを通して、言葉による表現に親しむこと。</p>	<p>(知・技) ・遊ばせたりして、言葉の面白さや文の表現に触れること。</p>	<p>(知・技) ・出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。</p>	
	<p>(思・判・表) ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。</p>	<p>(思・判・表) ・教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。</p>	<p>(思・判・表) ・絵本や易しい読み物などをよみ、挿絵と結びつけて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。</p>	<p>(思・判・表) ・絵本や易しい読み物などをよみ、挿絵と結びつけて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。</p>	
	<p>(学・人) ・教師の言葉で表すことやそのよさを感じることも、言葉を使おうとする。</p>	<p>(学・人) ・身の回りの事物や事象を言葉で表せることを知り、自分なりに表現してみようとする。</p>	<p>(学・人) ・調べたことや分かったことを、発表し合ったり掲示物として示したりすること。</p>	<p>(学・人) ・調べたことや分かったことを、発表し合ったり掲示物として示したりすること。</p>	
	<p>(知・技) ・言葉の持つ音やリズムに触れたり言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。</p>	<p>(知・技) ・身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。</p>	<p>(知・技) ・言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくこと。</p>	<p>(知・技) ・言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくこと。</p>	
	<p>(思・判・表) ・絵本などを見て、次の場面を楽しんだり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。</p>	<p>(思・判・表) ・絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。</p>	<p>(思・判・表) ・登場人物になったつもりで音読したり演じたりすること。</p>	<p>(思・判・表) ・登場人物になったつもりで音読したり演じたりすること。</p>	
	<p>(学・人) ・教師の言葉で表すことやそのよさを感じることも、言葉を使おうとする。</p>	<p>(学・人) ・身の回りの事物や事象を言葉で表せることを知り、自分なりに表現してみようとする。</p>	<p>(学・人) ・調べたことや分かったことを、発表し合ったり掲示物として示したりすること。</p>	<p>(学・人) ・調べたことや分かったことを、発表し合ったり掲示物として示したりすること。</p>	
	<p>(知・技) ・身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。</p>	<p>(知・技) ・身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が気持ちや要求を表していることを感じる。</p>	<p>(知・技) ・身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取る。</p>	<p>(知・技) ・身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取る。</p>	
	<p>(思・判・表) ・教師の話しや読み聞かせに応じ、音声を模倣したり表情や身振り、簡単な話し言葉で表現したりすること。</p>	<p>(思・判・表) ・教師の話しや読み聞かせなどを通して、言葉の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取る。</p>	<p>(思・判・表) ・身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。</p>	<p>(思・判・表) ・身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。</p>	

つうねん	よんでみよう	知・技	<p>(学・人) 自分のイメージした事物や事柄を表す言葉を考えて伝えようとする。</p> <p>(知・技) ・身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。</p> <p>(思・判・表) ・伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。</p> <p>(思・判・表) ・身近な人の関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。</p> <p>(学・人) 自分のイメージした事物や事柄を表す言葉を考えて伝えようとする。</p>	<p>(学・人) 身の回りの事物や事象、経験したことや気持ちなどを言葉で表せることを知り、自分なりに表現してみようとする。</p> <p>(知・技) ・身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が気持ちや要求を表していることを感じる。</p> <p>(思・判・表) ・体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。</p> <p>(思・判・表) ・経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。</p> <p>(学・人) 身の回りの事物や事象、経験したことや気持ちなどを言葉で表せることを知り、自分なりに表現してみようとする。</p>	<p>(学・人) 自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いを受け止めたりしようとする。</p> <p>(知・技) ・身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には、物事の内容を表す働きがあることに気づくこと。</p> <p>(思・判・表) ・経験したことを思い浮かべ伝えたいことを考えること。</p> <p>(思・判・表) ・身近で見聞きたり、経験したりしたことについて、書きたいことを見つけ、その題材に必要な事柄を集めること。</p> <p>(学・人) 自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いを受け止めたりしようとする。</p>
			<p>(知・技) ・言葉の持つ音やリズムに触れたり言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。</p>	<p>(知・技) ・身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。</p> <p>(知・技) ・日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。</p>	<p>(知・技) ・日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を覚えること。</p> <p>(知・技) ・正しい姿勢で音読すること。</p> <p>(知・技) ・姿勢や口形に気をつけて話すこと。</p> <p>(思・判・表) ・文などに対して感じて感じたことを伝えること。</p>
2・4・6年					
思					





				使い方により、意味が変わることを知ること。
				(知・技) 物事の始まりと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること
思・判・表	(思・判・表) ・文字に興味をもち、書こうとすること。	(思・判・表) ・自分の名前や物の名前を文字で表すことができ、書くことを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。		(思・判・表) ・見聞きしたり、経験したりしたことについて、伝えたい事柄の順序を考えたり、簡単な語句や短い文を書いたりすること。
学・人	(学・人) ・言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	(学・人) ・身の回りの事物や事象を言葉で表せることを知り、自分なりに表現して見ようとする。		(思・判・表) ・書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。
知・技	(知・技) ・読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと	(知・技) ・読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。		(学・人) ・経験したことや出来事、自分の思いなどを、書き表そうとする
思・判・表	(思・判・表) ・絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること	(思・判・表) ・日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。		(知・技) ・図書を用いた調べ方を理解して使う。
学・人	(学・人) ・言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	(学・人) ・身の回りの事物や事象を言葉で表せることを知り、自分なりに表現して見ようとする。		(思・判・表) ・日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。
				(学・人) ・文の思いや考えを伝えたり、相手の思いを受け止めたりしようとする。
くらべてみよう・しらべてみよう				

※ 斜め字（はなしてみよう）は、「よんでみよう」の題材。来年度検討する。

あたご小学部 研究授業 単元別指導計画表

(資料2)

国語科指導計画表 単元名【 話をしよう① 】		指導時期 (9) 月～ (12) 月
単元計画 (全○時間)	(題材名・時間) 「① かいもの ( 8 )」	
○部段階で育てたい力	◎②他者とのかかわり ア状況に応じた挨拶、返事、言葉遣い イ意思の伝達 【小学部段階で必要な力】 ア丁寧な言葉を使って話す アその場にふさわしい行動をとる イ日常生活の中で身近な人に自分の気持ちを伝える	
(知・技)	【3段階】 ○実物や場面のイラストを見て。物の名称や言葉での適切なやり取りが分かる。ア (ア) ○日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知る。ア (ウ) ○かいものごっこを通して、いろいろな語句や文の表現に触れる。ウ (イ)	
	【2段階】 ○実物や場面のイラストを見て、物の名称が分かったり、やり取りの違いに気付いたりすることができる。ア (ア) ○日常生活でよく使われている平仮名を読むことができる。ア (ウ) ○遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむことができる。イ (イ)	
(思・判・表)	【3段階】 ○挨拶や買い物物のやり取りの受け答えなど、決まった言い方を使う。エ ○場面に応じたやり取りを発音や声の大きさに気をつけながら、適切に行うことができる。オ ○相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりする。カ	
単元目標	【2段階】 ○身近な人との話に慣れ、簡単な事柄と語句を思い浮かべたりすることができる。ア ○簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすることができる。イ ○相手の問いかけに対して、言葉や自分の手段で答えることができる。エ	

	(学・人)	<p>【3段階】</p> <p>○言葉や話すことのよさを感じ、積極的に伝えようとしたり相手の話をよく聞こうとしたりすることができる。</p> <p>○相手のとのやり取りを通して、互いの考えの違いに気付き、円滑にやり取りをしようとするすることができる。</p> <p>【2段階】</p> <p>○言葉や話すことの機能や便利さに気付き、自ら伝えようとしたり相手の話を聞こうとしたりすることができる。</p>	
<p>題材 ① (9)</p>	<p>【内容】 おみせにあるものについてはなす、しる 2 かいものでの やりとりに 3 ついてしる 3 かいものごっこをする、まとめ (本時2/3) 3</p>	<p>【指導上の留意点、教材等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語☆☆☆30～31ページ</li> <li>・児童に応じて絵カードや写真カードを使用する。</li> <li>・児童に応じてメモの内容を変えたり、買い物の話の話し方を工夫したりする。</li> <li>・買い物に関する指導は保護者と連携し、児童に応じて家庭でも体験できるようにする。</li> </ul>	
<p>単元評価</p>	<p>A (知識・技能)</p> <p>【3段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達との会話を通して、会話の内容や指示を理解することができたか。</li> <li>・メモを見て大まかに内容を理解することができたか。</li> </ul> <p>【2段階】</p> <p>【1段階】</p> <p>【授業時数・指導時期について】</p>	<p>B (思考力・判断力・表現力)</p> <p>【3段階】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面に応じて、決まった言い方(挨拶、話し方)を使うことができたか。</li> <li>・発音や声の大きさ、話す速さに気をつけることができたか。</li> </ul> <p>【2段階】</p> <p>【1段階】</p> <p>【目標設定・内容・手立てについて】</p>	<p>C (主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>【3段階】</p> <p>言葉を用いて、自分や相手の目的を伝えたり、共有したりすることができたか。</p> <p>【2段階】</p> <p>【1段階】</p> <p>【教材について】</p>
<p>授業評価</p>	<p>【授業時数・指導時期について】</p>	<p>【教材について】</p>	

※「○部段階で育てたい力」について・・・学校教育目標を達成するための必要な資質・能力を各段階に分けた表から選択する。  
 ※目標については、学習指導要領の内容をそのまま転記する。

## 算数科 1段階 指導内容一覧表 (1年)

(資料3)

単元名		内容の分類	内容	教材
数量の基礎	みつけよう	Aア(ア)	㊦具体物に気付いて指をさしたり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。	「じゅんぴはいいかな」 「ぎゅうにゆうないひとはだれ？」
			㊧目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。	「ともだちいるかな」 「きょうのよていはなにかな？」 「どこにかくれているかな？」 「どこからででくるかな」
	あわせてみよう	Aア(イ)	㊦対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。	
			㊦ものともものとを対応させて配ること。	「マークに合わせてならべよう」 「みほんどおりにくばろう」
		Aイ(ア)	㊧分割した絵カードを組み合わせること。	「あわせてみよう①②」
			㊧関連の深い絵カードを組み合わせること。	「なかまをあつめよう①②」
かずあそび かずのまとめ	Bア(ア)	㊦ものの有無に気付くこと。		
		㊧目の前のものを1個、2個、たくさんで表すこと。		
	Bア(イ)	㊦数詞ともものとの関係に注目し、数のまとめや数え方に気付き、それらの学習や生活で生かすこと。		
図形 かたちあそび	Cア(ア)	㊦具体物に注目して指をさしたり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。	「じぶんのマークはどれかな」 「じぶんのマークにいれよう」 「いろいろなかたちをつくってみよう」 「あわせてみよう③④」	
		㊧形の観点に区別すること。	「いろいろなかたちをさがしてみよう」 「だれのあしあとかな」	
		㊧形が同じものを選ぶこと。	「おなじものをさがそう①」	

算数科 1段階 指導内容一覧表(2年)

単元名		内容の分類	内容	教材
数と計算	かぞえてみよう	Bア(ア)	㊦ 5までの範囲で数唱すること。	
		Bア(イ)	㊦ 数詞ともものとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらの学習や生活で生かすこと。	
	くみあわせ	Bア(ア)	㊦ 対応させてものを配ること。	「マークに合わせてならべよう」
		Bア(イ)	㊦ 数詞ともものとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらの学習や生活で生かすこと。	
	かずとすうじ	Bア(ア)	㊦ 3までの範囲で具体物を取ることに。	
			㊦ 形や色、位置が変わっても、数は変わらないことについて気付くこと。	
Bア(イ)		㊦ 数詞ともものとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらの学習や生活で生かすこと。		
図形	いろいろなかたち	Cア(ア)	㊦ 似ている二つのものを結び付けること	
			㊦ 関連の深い一対のものや絵カードを組み合わせることに。	「そろえてみよう」
		㊦ 同じもの同士の集合作りをすること。	「どこにかたづける？」	
	Cア(イ)	㊦ ものともものとの関係に注意を向け、ものの属性に気付き、関心をもって対応しながら、表現する仕方を見つけ出し、日小生活で生かすこと。		
測定	おおきさくらべ	Dア(ア)	㊦ ある・ない、大きい・小さい、多い・少ないなどの用語に着目して表現すること。	「どっちがおおきい？」 「どっちがおおい？」
		Dア(イ)	㊦ 大小や多少等で区別することに関心をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。	

		Cア (イ)	㊦対象物に注意を向け、対象物の存在に気付き、諸感覚を協応させながら具体物を捉えること。	
			㊧ものの属性に着目し、様々な情報から同質なものや類似したものに気付き、日常生活の中で関心をもつこと。	
測定	くらべてみよう	Dア (ア)	㊦大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。	「どっちがおおきい？」 「どっちがたくさんはいるかな？」
		Dア (イ)	㊦大小や多少等で区別することに関心をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。	

## 算数科 2段階 指導内容一覧表 (3年)

単元名		内容の分類	内容	題材
数 と 計 算	おおい、すくない、おなじ	Aア(ア)	㊦ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少がわかること。	ともだち☆☆ くみあわせ(1)~(4) ☆☆
			㊧ものの集まりと対応して、数詞が分かること。	ともだち☆☆
			㊨ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	ともだち☆☆
	10までのかず	Aア(ア)	㊩個数を正しく数えたり書き表したりすること。	10までのかず P26、 P30~P35、P38~P39 ☆☆
			㊪0の意味について分かること。	10までのかず P36~P37☆☆
		Aア(イ)	㊫数詞、数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	
図 形	かたちとなかま あつめ①	Bア(ア)	㊬色や形、大きさに着目して分類すること。	おなじいろでわけよう ☆ おなじカードはどれか な? ☆ おなじカードをあわせ よう☆ おなじえをならべよう ☆
		Bア(イ)	ものを色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かすこと。	
	かたちとなかま あつめ②	Bア(ア)	㊬色や形、大きさに着目して分類すること。	おなじものをさがそう ②☆ おなじものところ にかたづけよう☆
			㊭身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類すること。	おなじものところ にかたづけよう☆
Bア(イ)	ものを色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かすこと。			
いろいろな お おきさ	Cア(ア)	㊮長さ、高さなどの量の大きさが分かること。	どっちがながい? どっちがたかい? ☆	



				ながいみじかい☆☆ たかいひくい☆☆
			㊦二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。	どっちがながい？ どっちがたかい？☆ ながいみじかい☆☆ たかいひくい☆☆
			㊦長い・短い、高い・低いなどの用語が分かること。	どっちがながい？ どっちがたかい？☆ ながいみじかい☆☆
		Cア(イ)	㊦長さ、高さなどの量を、一方を基準にして比べることに関心をもったり、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。	たかいひくい☆☆
データの活用	絵グラフづくり	Dア(ア)	㊦身近なものを目的、用途、機能に着目して分類すること。	おおいすくない☆☆
		Dイ(ア)	㊦ものとももの対応させることによって、ものの同等や多少が分かること。	おおいすくない☆☆
		Dイ(イ)	㊦身の回りにあるものの個数に着目して絵グラフなどに表し、多少を読み取って表現すること。	

算数科 2段階 指導内容一覧表 (4年)

単元名		内容の分類	内容	題材
数 と 計 算	かずをくらべる	Aア(ア)	㊦ものともものとを対応させることによって、もの の個数を比べ、同等・多少がわかること。	プール☆☆
			㊧二つの数を比べて数の大小が分かること。	かずくらべ(1)～(5) ☆☆
			㊨数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。	うんどうかい☆☆ なんばんめ(1)～(2) ☆☆
	かずをあわせる	Aア(イ)	㊦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え 方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、 それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	かずくらべ(1)～(5) ☆☆
			㊦一つの数を二つに分けたり、二つの数を一つの 数にまとめたりして表すこと。	あわせましょう(1)～ (2)☆☆ わけましょう(1)～ (2)☆☆ いくつといくつ ・「いくつになるかな」 ☆☆
			㊦具体的な物事を加えたり、減らしたりしながら、 集合数を一つの数と他の数と関係付けてみるこ と。	あわせましょう(1)～ (2)☆☆
Aア(イ)	㊧10の補数が分かること。	いくつといくつ ・「10はいくつといく つ」☆☆		
	㊦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え 方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、 それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	かずくらべ(1)～(5) ☆☆		
	図 形	Bイ(ア)	㊦身の回りにあるものの形に関心をもち、丸や三 角、四角という名称を知ること。	かたはめ☆☆ いろいろなかたち☆☆
㊦大きさや色などの属性の異なるものであっても 形の属性に着目して、分類したり、集めたりする こと。			いろいろなかたち☆☆	
Bイ(イ)		㊦身の回りにあるものの形に関心を向け、丸や三 角、四角を考えながら分けたり、集めたりするこ と。	いろいろなかたち☆☆	
かたちづくり		Bイ(ア)	㊦縦や横の線、十字、△や□を描くこと。	いろいろなかたち☆☆ ☆
	㊦大きさや色などの属性の異なるものであっても 形の属性に着目して、分類したり、集めたりする こと。		いろいろなかたち☆☆ ☆	

		Bイ(イ)	⑦身の回りにあるものの形に関心を向け、丸や三角、四角を考えながら分けたり、集めたりすること。	いろいろなかたち☆☆
測定	いろいろな おお きさ2	Cア(ア)	⑦重さ、広さなどの量の大きさが分かること。	
			⑦二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。	
			⑦重い・軽い、広い・狭いなどの用語が分かること。	
		Cア(イ)	⑦長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに感心をもったり、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。	
データ活用	ひょうづくり	Dウ(ア)	⑦身の回りの出来事から○×を用いた簡単な表を作成すること。	
			⑦簡単な表で使用する○×の記号の意味が分かること。	
		Dウ(イ)	⑦身の回りの出来事を捉え、○×を用いた簡単な表で表現すること。	

単元名		内容の分類	内容	題材
数と計算	20までの数	Aア(ア)	㊦20までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の大小を比べたりすること。	○かぞえましょう ・いちにさん… ・いくつあるでしょう ○20までの数の大小 ・どちらが多いでしょう ・数の大きい方に○をつけましょう ・数の多い方に○をつけましょう ・どちらの数が大きいでしょう
		Aア(イ)	㊦数のまとまりに注目し、数の数え方や数の大ききの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。	
数のまとまり		Aア(ア)	㊦数える対象を2ずつや5ずつのまとまりで数えること。	○まとめてかぞえましょう ・2ずつかぞえましょう ・5ずつかぞえましょう
		Aア(イ)	㊦数のまとまりに注目し、数の数え方や数の大ききの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。	
数の順序		Aア(ア)	㊦100までの数について数唱を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。	○順番に並べましょう ・10より小さい数 大きい数 ・どんな数が入るでしょう ・裏返したカードはいくつでしょう
		Aア(イ)	㊦数のまとまりに注目し、数の数え方や数の大ききの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。	

図形	物の位置関係	Bア (ア)	㊦ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉える。	
			㊧具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。	
			㊨前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、物の位置を表すこと。	
		Bア (イ)	㊦身の回りにあるものから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。	
㊧身の回りにあるものの形を図家として捉えること。				
測定	ながさくらべ	Cア (ア)	㊦長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。	○ながいみじかい ・並べてみましょう ・一番長いのはどれでしょう ・ながさをはかってみましょう ○長さを比べましょう ○高さを比べましょう
		Cア (イ)	㊦身の回りのものの広さやかさやその単位について着目して大小を比較したり、表現したりすること。	
	とけい	Cイ (ア)	㊦日常生活の中で時刻を読むこと。	○とけい ・学校の生活 ・長い針短い針
		Cイ (イ)	㊦時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結び付けて表現すること。	
データ	グラフ	Dア (ア)	㊦ものとももの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだりすること。	
		Dア (イ)	㊦個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に書き換えて簡潔に表現すること。	

## 算数科 3段階 指導内容一覧表 (6年)

単元名		内容の分類	内容	題材
数と計算	数のまとまり	Aア (ア)	エ10のまとまりとして数えたり、10のまとまりとして端数に分けて書き表したりする。 オ具体物を分配したり等分したりすること。	○同じ数に分けましょう ・二人で分けましょう ・同じ数に全部分けましょう
		Aア (イ)	㊦数のまとまりに注目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。	
足し算		Aイ (ア)	㊦加法が用いられる合併や増加等の場合について理解すること。 ㊦加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ㊦1位数と1位数との加法の計算ができること。 ㊦1位数と2位数との和が20までの加法の計算ができること。	○合わせていくつ ○増えるといくつ ○式を作りましょう (たしざん) ○けいさんしましょう (たしざん)
		Aイ (イ)	㊦日常の受賞における数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を見付け出したり、学習や生活で生かしたりすること。	
引き算		Aイ (ア)	㊦減法が用いられる求残や減少等の場合について理解すること。 ㊦減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ㊦20までの数の範囲で減法の計算ができること。	○残りはいくつ ○式を作りましょう (ひき算) ○計算しましょう (ひきざん) ○ちがいはいくつ ○20までの数の足し算
		Aイ (イ)	㊦日常の受賞における数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を見付け出したり、学習や生活で生かしたりすること。	

図形	物の位置関係	Bイ (ア)	㊦傾斜をつくると角ができることを理解すること。	○角を探しましょう ○いろいろな大きさの角 ○みぎひだり
		Bイ (イ)	㊦傾斜が変化したときの斜面と底面の作り出す開き具合について、大きい、小さいと表現すること。	
測定	とけい	Cイ (ア)	㊦時間の単位 (日、午前、午後、時、分) について知り、それらの関係を理解すること。	○とけい ・なんじですか ・午前午後
		Cイ (イ)	㊦時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結び付けて表現すること。	
	ながさくらべ	Cア (ア)	㊦身の回りにあるものの大きさを単位として、そのいくつかで大きさを比較すること。	・ながさはいくつぶんでしょう ○太さを比べましょう ○あつい、うすい ○ふかい、あさい ○遠い近いと広い狭い ○重さを比べましょう
		Cア (イ)	㊦身の回りのものやその単位について着目して大小を比較したり、表現したりすること。	
データ	グラフ	Dア (ア)	㊦身の回りにあるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取ること。	